

特集
地域からの
情報発信

由利本荘市『大内地域の三大行事』 ここにあり！

水士里レポーター 加藤 隆和
(大内土地改良区)

秋田県内で最も大きな市である由利本荘市の旧大内町には古くから引き継がれてきた三つの大きな行事があります。三つの大きな行事とは「長坂稲荷神社の梵天祭」「折渡の地蔵祭」「岩谷麓のワタワタ」であり、これらの行事は信仰的・宗教的なものではありませんが地域住民の心の中の一つの誇りとして継承されてきました。



始めに「長坂稲荷神社の梵天祭」について紹介します。稲荷神社は五穀の神として「稲倉魂命」を祀っていて「イナリ」は「イネナリ」の縮まったもので、稲の成長を助けることを意味し、稲荷と書くのは稲の束を荷なうことからだと言われています。この梵天祭りは約200年前から五穀豊穰・商売繁盛・家内安全などを祈願し、梵天奉納が行われます。長坂稲荷神社の梵天祭は先陣をみんなで争う為、「喧嘩稲荷」とも言われ奉納の際の押し合いは壮観です。尚、梵天祭は毎年3月の第2日曜日に開催されています。

次は「折渡の地蔵祭」です。折渡は約240年前に開基された地蔵尊がある場所で「いぼとり地蔵」としても大変有名です。元々は峠道を通る旅人の安全祈願のために安置されたのが起源という地蔵尊ですが、今から20年ほど前に地蔵尊の周辺に千体の地蔵を建立・安置されました。毎年7月24日の地蔵祭は参拝する人で大賑わいです。また1月24日にも初地蔵かんじき詣が行われています。



最後は、「岩谷麓のワタワタ」です。いつから始めたか定かではありませんが、毎年小正月の1月15日に行われおり、奇習と呼ばれているこの祭りは、岩谷麓集落でこの1年間に嫁・婿をもらった家で行われます。一説には早く集落になじんでもらうための呪術的洗礼とか、新婚夫婦を招き子宝を受ける儀式であるという説もあります。

これらの伝統的な行事も年々、地域の高齢化・過疎化が原因となり参加人数は減少し、若い世代への継承が大変難しい状況となってきました。しかし、それぞれの行事へ地域住民や近隣住民だけの参加ではなく、市外や県外の観光客も参加できる環境にすることができればもっと魅力のある行事として地域に根付き、現在と多少形は変わっても、若い世代へ継承することも可能となってきます。この記事を読んでくれた方が少しでも興味を持っていただいて、当由利本荘市大内地域へ足を運んでいただければ嬉しく思います。

第10回 「水土里のみちウォーキング」in 仁井田Walk開催

～雨の中、水辺の道散策 仁井田・四ツ小屋地区～



6月17日（日）秋田市の仁井田、四ツ小屋、河辺地区を散策する「水土里のみちウォーキング」in 仁井田 Walkが、同市御所野の県中央シルバーエリア前広場を発着点として開催され



た。2003年（平成15年）から始められ、今年で10回となるこのイベントは、日本ウォーキング協会の公認コースとなっている「水土里のみち」をたどることにより、先人が拓いた農業水利施設の役割と豊かな自然を再発見するもので、水土里ネット仁井田（伊藤作一郎理事長）と県ウォーキング協会（星野和夫会長）が主催している。



今回は、6kmと14kmの2コースに211人の参加があり、あいにくの雨に見舞われ、14kmは10kmに短縮となったが、参加者は傘を差したり、かっぱを着たりして、四ツ小屋幹線水路の管理用道路、せせらぎ水路の側道や周辺などを歩きながら、施設の役割や地域の歴史などを学んだ。

家族5人で参加した方は「リウマチのリハビリを兼ねて歩いたが、思った以上に歩いて驚いている。この夏、せせらぎ水路に、また孫を連れて来たい」と話していた。

ゴール地点では、恒例となっている地元農家による朝採り野菜の販売、ポップコーンの提供も行われ、今回は、第10回記念大会として、秋田花まるっG・T協議会加盟の農家民宿ペア宿泊券が3名様に、エフエム樺台生放送出演券が3名様等の記念抽選会、さらに、これまで5回以上参加した方には、記念カレンダーのプレゼントも行われた。

このイベントは、水土里ネット主催のものとしては、県内でも有数の参加規模を誇る催しとなっている。



会員だより

新理事長就任のお知らせ

次の方が新たに理事長に就任されました。

○秋田県能代地区土地改良区(H24. 6. 21)
理事長 今野 清 孝

「平成24年春の叙勲」受章者発表

平成24年春の叙勲受章者が、4月29日に発表されました。本会の会員から次の方が受章されました。誠におめでとうございます。



○旭日単光章(土地改良事業功労)
田 中 長
・琴丘土地改良区理事長
・秋田県土地改良事業団体連合会
山本支部副支部長
・元秋田県土地改良事業団体連合会監事

連 合 会 日 誌

4月27日	秋田県土地改良事業団体連合会雄勝支部全体会	湯沢市
5月1日	平成24年度鹿角支部全体会及び意見交換会	鹿角市
5月2日	平成24年度秋田県土地改良事業団体連合会由利支部全体会	由利本荘市
6月7日	本会決算監査(～8日)	本会「第1会議室」
6月7日	秋田県土地改良事業団体連合会平鹿支部全体会	横手市
6月27日	秋田県仙北平野土地改良事業推進協議会平成24年度総会	大仙市
6月29日	秋田県耕作放棄地対策協議会通常総会	本会「第1会議室」
7月19日	第1回秋田県土地改良区統合整備検討委員会	秋田市
7月19日	2012ため池フォーラム in いわて	盛岡市
.....今後の行事予定.....		
7月26日	平成24年度国営農業水利事業東北協議会総会	三種町
7月27日	土地改良区統合整備事例研修会	秋田市「県庁第二庁舎」
7月31日	平成24年度秋田県農地利用集積推進対策会議	本会「第1会議室」
8月9日	許すな壊国TPP! 守ろう秋田の地域経済・秋田県民フォーラム	秋田市「秋田市文化会館」
8月20日	21世紀土地改良区創造運動大賞 東北地方選考委員会	仙台市
8月29日	平成24年度換地委員等実務研修	秋田市「秋田テルサ」
9月9日	『第1回水土里のみちウォーキング』in抱返り溪谷	仙北市田沢湖
10月31日	第135回秋田県種苗交換会(～11/6)	能代市
10月31日	第15回全国農業担い手サミット in あきた(～1日)	秋田市「秋田県立武道館」
11月21日	第35回全国土地改良大会(沖縄大会)	那覇市

本会職員の訃報



本会総務企画部専門員の畠山政勝(62歳)さんが、病氣療養中のところ7月4日永眠いたしました。

畠山さんは、昭和43年4月に本会職員として採用後、事業部管理課指導係、業務部集落排水課、管理指導部管理課長、北事務所長、総務企画部次長などを歴任、特に施設管理の指導などで土地改良区との関わりも深く、本会の事業推進に多大な貢献をされました。なお、平成21年3月に退職後は、総務企画部専門員として再雇用され、秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会事務局員として、同事業の円滑な推進に尽力されました。

会員の皆様に訃報をお知らせしますとともに、謹んでご冥福をお祈り致します。

第13回 美しく豊かな農村づくり 写真コンクール

秋田県内に在籍している学生（高校生以上）を対象に、写真を募集しています。

募集内容 秋田県の農生産、農村の生活、文化、環境など幅広くとらえた農村風景の写真

応募締切 9月25日(火)当日消印有効

応募資格 県内高等学校、大学、短大、専門学校に在籍している学生

賞 水土里ネット会長賞(1点)／優秀賞(5点)／佳作(10点)



【問い合わせ先・申込先】 水土里ネット秋田（秋田県土地改良事業団体連合会） 総務企画部 広報・渉外班 あて
TEL.018-888-2742 FAX.018-888-2834

「ふるさとの田んぼと水」 子ども絵画展2012 作品募集中

テーマ 「新発見！ぼくのわたしのふるさと」

応募締切 9月7日(金)必着

応募資格 小学生以下

賞(昨年度実績) 農林水産大臣賞／文部科学大臣賞／環境大臣賞／
全国水土里ネット会長賞／ふるさと水と土優秀賞 など

応募のきまり

- ・応募資格は小学生以下。クラスや学校単位での共同作品も可。
- ・四つ切り画用紙サイズ(38cm×54cm)以上、90cm×190cmまでとします。
- ・作品テーマにまつわる題材で自由に描いてください。画材は自由です。
- ・応募用紙に必要事項を記入のうえ、はがれないように作品のウラに貼り付けてください。



【応募先・問い合わせ先】 〒010-0967 秋田市高陽幸町3-37 水土里ネット秋田（秋田県土地改良事業団体連合会）
総務企画部 広報・渉外班 あて TEL.018-888-2742 FAX.018-888-2834

野山の花 チングルマ(珍車、稚児車)



高山の雪渓周辺の草地や砂礫地に生える。

高さ10cm程度で、枝は地面を這い群落を作り葉は羽状複葉。花茎の先に3cmほどの白い花を1つ咲か

せる落葉小低木。草花に見えるが木である。花期は6月～8月。

和名のチングルマは、この実の形が子供の風車(かざぐるま)に見えたことから稚児車(ちごくるま)から転じて付けられた。

『花言葉:可憐』 撮影:2012.6 秋田駒ヶ岳

夏季休暇のお知らせ

水土里ネット秋田は、8月13日～15日まで夏季休暇のため、各事務所(本部・北事務所・南事務所)は閉館となりますのでお知らせします。

編集後記

◆ 大仙市にあるホテルが見られる場所に出掛けた。地元の人に案内された場所で「あっ」と声を上げてしまった。宵闇に包まれていく中、水田脇の水路から淡い光の粒が湧き上がり一面を漂っていた。昔はどこでも見られた光景のはずだが、圃場改修や農薬散布の影響で生息できる場所が減ってしまった。発光は雄と雌のコミュニケーションの手段とされる。成虫になってからの寿命は約1～2週間と言われるが、そのわずかな期間に繰り広げられる小さな命の営みに、なぜ強く心を揺さぶられるのか。何十年ぶりで見た日本の原風景に私たちが失いかけていたことを指摘された気がした。県内の小中学校も夏休みに入る。ぜひ、家族や友人でホテル狩りを楽しんではいかがだろうか。

広報・渉外班◆高橋(康)記